

シライ電子工業 (コード 6658)

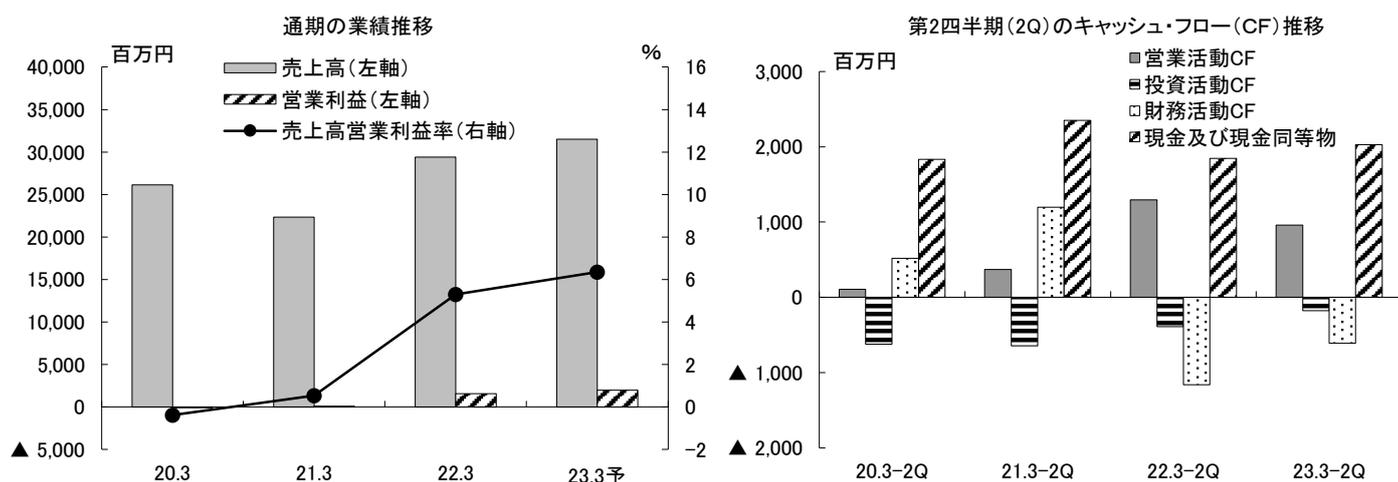
◆各決算期の第2四半期業績推移(連結)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
20.3	12,861	▲241	▲28.3	0.0	109	▲622	518	1,833
21.3	10,586	▲282	▲31.7	0.0	368	▲644	1,196	2,350
22.3	13,420	529	47.4	0.0	1,293	▲388	▲1,162	1,846
23.3	16,836	1,441	82.2	0.0	958	▲178	▲611	2,028

◆通期業績推移(連結) (23.3 予は会社側発表値)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
20.3	26,135	▲98	▲35.8	0.0	1,298	▲1,319	▲335	1,484
21.3	22,355	119	▲15.0	0.0	1,284	▲1,116	474	2,065
22.3	29,397	1,558	95.3	10.0	2,525	▲620	▲2,366	1,693
23.3予	31,500	2,000	101.0	15.0	—	—	—	—

(CF=キャッシュ・フロー。現金及び現金同等物は各期末値。▲はマイナス。単位は百万円、円)



23年3月期第2四半期の業績概況…23年3月期第2四半期累計期間(22年4~9月)の業績は、売上高168億3,600万円(前年同期比25.4%増)、営業利益14億4,100万円(同172.1%増)、経常利益13億1,700万円(同131.4%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益11億3,900万円(同72.1%増)となった。国内外の主力分野であるカーエレクトロニクス・ホームアプライアンス関連の販売が堅調に推移し、売上高は大きく増加。利益面では、生産稼働率の上昇、意思決定の迅速化、経営資源の再配分など経営構造改革の効果発現により、売上高営業利益率が8.6%(前年同期は3.9%)に向上し、営業利益、経常利益は大幅な増益となった。四半期純利益については、前年同期は税効果会計の影響によって大きく税金費用が抑えられ、当期はその影響が無くなったものの、売上高、営業利益などの大幅な増加を受けて増益となった。

セグメント別の売上高では、プリント配線板事業が166億1,200万円(前年同期比27.2%増)、検査機・ソリューション事業が1億6,800万円(同45.8%減)などとなった。プリント配線板事業については、国内外においてカーエレクトロニクス、ホームアプライアンス、電子応用などの主力分野の受注が堅調に推移。基板採用分野別では、カーエレクトロニクス関連65億8,300万円(同26.2%増)、電子応用関連46億2,200万円(同30.0%増)、ホームアプライアンス関連31億7,800万円(同31.9%増)、通信・事務機器関連12億3,500万円(同6.2%増)、アミュー

ズメント関連 3 億 7,900 万円 (同 62.9%増) など、各分野で売上高を伸ばした。検査機・ソリューション事業においては、コロナ禍の影響を受けて海外への販売活動が制限されたことを背景に厳しい状況が続き、検査機の販売台数が減少し、売上高が縮小した。

セグメント別の営業利益は、プリント配線板事業が 14 億 4,400 万円 (同 179.1%増)、検査機・ソリューション事業が 1,100 万円の損失 (前年同期は 100 万円の損失) などとなった。プリント配線板事業については、生産効率の向上、管理可能個別固定費の圧縮に努めたことが効果を上げ、大幅な増益となった。検査機・ソリューション事業については、売上高の減少を主な要因に、損失額が拡大した。

国内外別では、売上高が国内 71 億 5,000 万円 (前年同期比 17.9%増)、海外 113 億 6,000 万円 (同 36.9%増) に、営業利益が国内 6 億 1,600 万円 (同 92.5%増)、海外 8 億 4,900 万円 (同 337.6%増) となっている。

キャッシュ・フロー (以下、CF) の状況については、当四半期末における現金及び現金同等物の残高は 20 億 2,800 万円 (前年同期末比 9.9%増) に増加した。営業活動による CF では、税金等調整前四半期純利益が 13 億 1,200 万円 (前年同期比 131.8%増)、減価償却費が 5 億 8,400 万円 (同 12.7%増)、賞与引当金の減少額が 1 億 7,500 万円 (同 660.9%増)、売上債権の減少額が 5 億 200 万円 (同 283.2%増)、たな卸資産の増加額が 2 億 9,800 万円 (同 3.6%減)、仕入債務の減少額が 7 億 4,400 万円 (前年同期は増加額 2 億 7,200 万円)、法人税等の支払額が 1 億 3,900 万円 (前年同期比 14.9%増) となったことなどから、営業活動による収入は 9 億 5,800 万円 (同 25.9%減) になった。投資活動による CF では、有形固定資産の取得及び売却による差引支出額が 1 億 6,400 万円 (同 53.9%減) となったことなどから、投資活動による支出は 1 億 7,800 万円 (同 54.1%減) になった。財務活動による CF では、短期借入金の純増額が 1 億 900 万円 (同 31.3%増)、長期借入金の借入・返済による差引支出額が 4 億 9,800 万円 (同 57.7%減)、リース債務の返済による支出が 8,400 万円 (同 23.5%増)、配当金の支払額が 1 億 3,700 万円 (前年同期は 100 万円未満) となったことなどから、財務活動による支出は 6 億 1,100 万円 (前年同期比 47.4%減) になった。

23 年 3 月期の通期業績見通し…23 年 3 月期の通期業績については、売上高 315 億円 (前期比 7.2%増)、営業利益 20 億円 (同 28.3%増)、経常利益 17 億円 (同 15.2%増)、親会社株主に帰属する当期純利益 (以下、当期純利益) 14 億円 (同 5.4%増) の見通しで、直近までに会社側の期初予想値 (22 年 5 月 13 日発表) から、売上高で 1 回、営業利益、経常利益、当期純利益でそれぞれ 2 回、期初予想値から増額修正されている (右表を参照)。1 株当たりの年間配当金についても、期初時点での計画値及び前期実績から 5 円増えて 15 円の予定となっている。

23 年 3 月期の通期業績予想修正の推移

	発表日	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益
22.05.13 期初		30,000	1,000	900	800
22.07.11 修正		30,000	1,400	1,300	1,200
22.11.11 修正		31,500	2,000	1,700	1,400

本レポートは、会社側が発表した決算短信や決算説明資料などにに基づき作成しており、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。